

いまやろう！



身のまわりのものでできる
骨折の手当の方法を覚えよう

1



折りたたみ傘など
骨折した腕の支えに
なるものを用意する

2



腕と支えを
ハンカチなどで
しっかり固定する

3



レジ袋などを
使って、
腕を首からつる

4



ハンカチやネクタイ
などで、腕を胸に
しばりつける

身のまわりのものでできる骨折の手当ての方法を覚えよう

ケガをして骨折している人がいたら、手当てをしてあげましょう。添え木や三角巾など、特別な道具がなくても、自分のまわりのものを使って骨折の手当てができます。まず、この方法で簡単に手当てをして、その後、病院へ連れて行きましょう。ケガがひどい場合は周りの人に救急車を呼んでもらって、救急車を待っている間に手当てしましょう。骨折の場合は、折れた骨が動くと痛みがひどくなるので、骨が動かないように、しっかり固定することが大切です。

骨折の手当てのしかた

1. 折りたたみ傘や雑誌、新聞紙など、骨折した腕の支えになるものを用意します。「支え」は折れた腕の両側の関節より長いものを使いましょう。
2. 腕と「支え」をハンカチなどで結んで、動かないようにします。折れた部分の両側の関節の近くを結びましょう。
3. レジ袋の横をハサミで切ります。そこに「支え」で固定した腕を入れて、首からつります。
4. 腕が動かないように、ハンカチやネクタイなどで、レジ袋でつった腕を胸にしばりつけます。

【いまやろう！】

1. 骨折の手当てに使えるレジ袋、大きなハンカチ、新聞紙や雑誌などをカバンに入れておきましょう。
2. 家族や友人など、近くの人と、手当ての練習をしてみましょう。

👉 こちらも CHECK: 「コミュニティを守る」①、③